

浄泉寺通信

第12号
年4回発行
浄土真宗本願寺派
吉見布教所浄泉寺
埼玉県比企郡吉見町
久保田40-1
発行責任者 福井学誠



大谷光真門主

西本願寺住職であり浄土真宗本願寺派第24代門主の大谷光真門主(67)は本年6月5日で御退任され、第25代門主に長男の光淳新門主(35)が御就任されます。門主の交代は1977年以来、37年ぶりのことです。本願寺派の門主は宗祖親鸞聖人の子孫で、約750年にわたって血脈でつながって参りました。光真門主は父の光照前門主から31歳で門主職を御継承され、全国500余りの組すべてを御巡教されただけでなく、北米やハワイ、欧州などの海外開教区へも精力的に赴かれ、財団法人全日本仏教会会長として国内外に向けて積極的に御発言され、御著書も多数あります。本願寺派の僧侶は、当時の門主を戒師とさせていただいて得度するのが伝統で、わたしは18歳で得度いたしました。当時の戒師は光真門主でした。光

真門主が戒師となってくれたことで、中身が整わない未熟なままでも僧侶とならせていただき、わたしにとつて光真門主は善知識です。善知識とは真理に導いてくださるかけがえのないお方を指す仏教の言葉で、お経に「善知識にあい、法を聞き、よく行ずること、これまた難し」(『仏説無量寿経』)とあります。その光真門主の御法話には優しいお人柄が本当によく出ているといえます。御著書の文章にも優しさを感ずるといいますか(誠に恐れ多いのですが)、なかでも2007年に立命館大学で行われた連続講義「現

代社会と宗教」で、受講生の質問への応えをいまも時々読み返します。それは、連続講義の内容に対する質問を受け付けたところ、講義のなかでは応じきれない量が寄せられたため、質問すべしに光真門主が後日、文書で回答されたもの集めた記録です。質問とはいえ、伝統教団から新興宗教までをひとくくりにして「宗教は嫌いだ」というものから、世界各国にみられる宗教と戦争の歴史、伝統教団の説く教義が現代社会からかけ離れていることなどを批判するものまで様々あります。一例をご紹介します。

学生：

「阿弥陀仏を信じることによって救われる」「救われる」や「極楽往生」の考えをあまり実感できません。それについてお話ししてくださいと嬉しいです。

光真門主：

一度本を読んだり、話を聞いたらわかるというものではありません。また単に頭、知識だけで理解するということでもありません。折にふれてご法話

などを聞いていただき、經典のお意を語った仏教書、信仰に生きる人に接するところが大事なのではないでしょうか。そういうことを通して、阿弥陀仏のお浄土からのはたらきに気づかせていただくのです。そのことが救われることにつながります。

一つ注意しなくてはならないのが、凡人の体験のみに固執しすぎると、妄想と真実を取り違える恐れがあるということ。言葉による表現、体験談、譬え話など、これらは宗教的な内容を指し示すものであって、真理そのものではありません。これらによって示された真意を受け取らねばならないということ。

例えば極楽浄土は、私たちの先達として、法然聖人、親鸞聖人が阿弥陀さまを信じてお念仏申して往生(往生生まれ)されたところ、わが祖先が、わが両親が阿弥陀さまを信じて往かれたところと、思い浮かべては

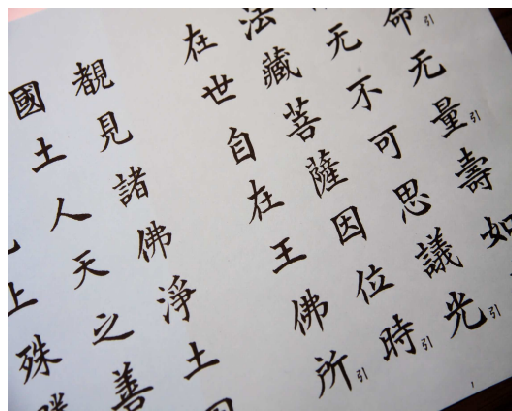
いかがでしょうか。夕陽を見て、西方極楽浄土へのお

もいを深めた人々も多いこととです。

「救われる」ことの1つは往生成仏することです。この世で体験することはできませんが、人生の方向、目的地が確かになると、この世の人生生活の支えとなります。特に、人生の上で辛い時、不安な時、何か(阿弥陀さま)に支えられている、見守られていると感じられれば、受け入れ、乗り越えることができるでしょう。これが二つめのこの世で「救われる」ことです。

さらに申しますと、この二つめの「救われる」は自分の姿を知らされる、有限な人間であること、何かのきっかけでとんでもないことを言ったり、したりする私であることを知らされるとともに、その私の全体が阿弥陀如来によって支えられている、受けとめられているという、深いめざめともなっています。そこからは生きる喜びや、他のいのちと共に生きるすばらしさ等の実感が育ってきます。

写経会のご案内



浄泉寺の写経会は「正信偈」をテキストにします。「写経とい

えば般若心経では？」と思われるでしょうが、般若心経そのものを浄土真宗では用いないからです。わたしたちは日々お経を読み、聞くことよって救われる喜びを味わいます。書くことでさらにその喜びが深まるようにとの願いから、浄泉寺でも写経の活動をしています。開催は偶数月の第三土曜日14時から1時間ほどです。今年最初の2月15日の回は大雪で中止でしたが、次回は4月19日14時から。必要なものはお寺でご用意します。もちろん無料。正座、椅子どちらでも大丈夫です。どなたさまもお気軽にご参加ください。

孟蘭盆会のご案内



参加費3,000円(お一人様、法要懇志とお弁当代として)

ご先祖を偲び、西方浄土へ想いをはせる孟蘭盆会を、東京築地の築地本願寺で勤修いたします。富士浄泉寺住職、埼玉浄泉寺住職ともに参ります。法要後には築地本願寺「日本料理紫水」オリジナルの精進弁当をいただきます。とくに初盆(新盆)の方は是非お参りください。

7月12日(土) 午前11時
築地本願寺(東京メトロ築地駅下車徒歩1分、無料駐車場あり)
参加費3,000円(お一人様、法要懇志とお弁当代として)
法話 福井学誠(埼玉浄泉寺住職)
後日往復葉書を郵送いたしますので、返信でお申し込みください。

【浄泉寺の今後の活動】

- 4月6日(日)10時 わくわく子ども会・花まつり 浄泉寺
- 4月18日(金)19時(毎月開催) 親鸞聖人御消息講座(第6回) フレサよしみ
- 4月19日(土)14時(偶数月開催) 写経会 浄泉寺
- 5月16日(金)19時 親鸞聖人御消息講座(第7回) フレサよしみ
- 5月18日(日)10時半 浄泉寺コーラス練習会 浄泉寺
- 6月6日(金)10時 法灯継承式
- 西本願寺(京都市下京区)
- 6月18日(水)13時 常例布教出講
- 弘教寺(千葉県市原市)
- 6月20日(金)19時 親鸞聖人御消息講座(第8回) フレサよしみ
- 6月21日(土)14時 写経会 浄泉寺

7月12日(土)11時

孟蘭盆会(お盆の法要)

築地本願寺(東京・中央区)

6月6日に京都・西本願寺で行われる法統継承式に、住職も一泊二日の予定でお参りします。埼玉から自家用車を運転して往復する予定ですが、移動がなぜ車かといいますが、京都に縁のあるご年配の方を同行するためと、さらに大谷本願への納骨を頼まれているからです。家の宗派が代々浄土真宗という方は、きつとご先祖様も京都の大谷本願に納骨されているはずですが、昔から分骨するのが伝統でしたが、時代は変わり全骨(お骨すべて)を選ばれる方が増えました。さて、毎年恒例のわくわく子ども会と花まつりを、4月6日(日)に開催します。今回は使い古し葉書を使った紙飛行機やペーパーフラワーをみんなで作ります。また、7月12日(土)に築地本願寺の一室をお借りして孟蘭盆会(お盆の法要)をお勤めいたします。とくに初盆の方は是非お参りください。詳しくは、お寺まで。TEL 0493-54-88003